

小銃 取扱い



射撃は実銃、実弾を使用するため、扱いを誤ると怪我や事故につながる恐れがあります。安全に射撃を実施するために銃の正しい取扱い方を習得しなくてはなりません。銃の仕組み、操作法、弾の扱い方、射撃を実施する上での知識、手順、号令に対する動作等、学ぶことは沢山あります。

命に関わることにもなり得ること、学生の成績に直結することもあり、教官達は緊張感をもって熱心に指導し、学生も真剣に取り組んでいました。



射撃は射手と予備射手がペアで実施します。予備射手が射座（銃を構える場所）までの弾薬の運搬や射手への供給、教官への報告等、助手のような働きをして、射手を全般的にサポートします。

弾薬は必要な分だけ予備射手から渡され、射手は弾数を確認してから装填。



装填後、報告とともに赤旗を上げる。



号令により照準や射撃等を実施する。



射撃時における各動作は、射場に入ってから出るまで、全て指揮官の号令により実施します。言い換えると号令なく動作することは許されません。安全に射撃を実施するため、実施者たちの動作は徹底して統制されます。

例えば「その場に立て」という号令もあるくらい、動作が細かに決められており、そうすることで危険な事象が起きないように管理しているのです。

戸惑いなく確実、迅速に各動作を行えるようになるまで、丁寧に繰り返し指導します。

修正方法の説明の様子



質問がある学生には
理解できるまで教えます。

射撃姿勢を指導する様子



写真ではわかりにくいですが、発射時の衝撃がわかるようにシュミレーションして、しっかりと保持する必要性を指導しています。

学生をものすごく睨みつける様子...



...ではなく器具を使って正しく照準できているか見ています。

こちらも同様です。





実銃を使用するという事で、たとえ弾が入っていなくても、銃口の管理については厳しく指導されています。学生も銃を置く際も含め、常に心掛けていた様子でした。撮影のために銃口の正面にいるような写真もありますが、許可を得て撮影しているのでご了承ください。射撃本番では、安全に射撃を実施し、高得点を取ってほしいと思います。